

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

加藤結芽・臨床心理学コース・博士後期課程3年

国際学会：国際ロールシャッハ及び投射法学会第26回大会XXIV Congress of the International Society for the Rorschach and Projective Methods 2024

参加地・期間：デンマーク・2024/7/8-12

発表題目：Adolescent Conflicts in Maintaining Psychological Distance in Close Friendships: Examining the Dismissive Avoidant Style Through Image Cards

成果の概要

筆者は、「Adolescent Conflicts in Maintaining Psychological Distance in Close Friendships: Examining the Dismissive Avoidant Style Through Image Cards」というタイトルで、デンマークで行われた、国際学会にてポスター発表を行いました。筆者は、青年が親に代わる他者と心理的な深い「つながり」を築いていく過程に関心があります。特に、つながれなさや、つながることの難しさに関心があります。他者と親密な過程を築く上では、葛藤が伴うこともあると思います。しかし、この葛藤は、必ずしも意識化されており、言語化されるわけではなく、葛藤があるものの言語化して表現されないこともあります。筆者は、他者と親密な関係を築くことに困難さがある青年の葛藤のうちでも、意識的に言語化されない領域の葛藤に迫りたいと考えています。そのために、筆者は「ロールシャッハ法」と呼ばれる心理検査を用いた研究を行っています。今回の国際学会は、このロールシャッハ法の国際学会であり、3年に1度開催されます。今回は、デンマークで行われましたが、これは、筆者にとって、初めての国際学会でした。初めての国際学会において、いきなり発表をすることは勇気のいることでしたが、金銭的支援をしていただき、せっかく遠方まで行くのであれば、発表をしたいと思い、勇気を出して、発表をすることにしました。

会場には、ロールシャッハ法を専門とする国際的な研究者が集いました。臨床心理学における心理アセスメント法の一つであるロールシャッハ法を専門とする研究者の集団ですので、ロールシャッハ法に特化した専門家が集いました。日本からは、ロールシャッハ法の最先端を担っておられる先生方が参加しておられました。筆者自身は、ロールシャッハ法を研究として用いている駆け出しの研究者として参加しました。日本国内であれば、これらの著名な先生方とは、恐れ多く、なかなか話しする機会ももちにくいですが、国際学会では、ロールシャッハ法に興味がある同志であり、北欧まで遙々発表しにきた仲間として、先生方も温かく受け入れてくださり、多くの著名な先生と交流をすることができました。また、それらの著名な先生方のご厚意により、海外の最先端をゆく先生方をご紹介いただき、海外の先生方とも交流する機会を持つことができました。また、国内の若手研究者との繋がりを作ることもできました。今回できた繋がりが、今後のシンポジウムや共同研究などに繋がっていくと良いなど感じております。筆者は、駆け出しの研究者ということもあり、新しく学ぶことばかりでしたが、非常に無知な筆者に対して、参加された先生方は、とても優しく接していただきました。今回、初めて英語で名刺を作り、十分だと思われる量を持っていきましたが、嬉しいことに全ての名刺を使い切るほど、多くの研究者の方々とも交流することができました。

今回、当支援を受けたことは、初めての国際学会での発表を経験するにあたり、非常に大きな後押しとなりました。非常勤の仕事を中心に生計を立てている学生にとって、このような支援があることは、非常にありがたいことであると思います。本支援を受けたことにより、過剰にお金のことを気にすることなく、学会に集中して、海外に滞在することができ、自分の発表に限らず、多くの口頭発表・シンポジウム・ワークショップに積極的に参加することができました。また、参加者として参加したこれらの場でも、勇気を出して、手を挙げて、英語で質問することができました。今回、本支援を受けて、初めての国際学会に参加したことで、臆せずに行動することの大切さと、行動することを通して多くのことを得られることを学ぶことができました。

今後は、今回の経験を1ステップとして、次は、国際誌に英語論文を投稿していきたいと考えています。今回の支援は、国際的な研究を行っていく上での非常に大きな一歩となりました。このような貴重な機会をいただきましたことに心から感謝をし、今後の研究に励んでまいります。